

平成29年度 中四国学生剣道リーダーセミナー 報告書

「中四国を担うリーダーとしての資質を磨き、トップレベルの学生と交流を深めよう。」



担当：中四国学生剣道連盟 幹事長 相場 秀斗

実施概要

日程：平成30年3月5日（月）～7日（水） 2泊3日

会場・宿泊：国立江田島青少年交流の家 <http://etajima.niye.go.jp/>

〒737-2126 広島県江田島市江田島町津久茂1-1-1

TEL 0823-42-0660

主催：中四国学生剣道連盟

実行委員：相場 秀斗（実行委員長：相場秀斗）他、中四国学生剣道連盟学生役員10名

広島県東広島市西条町下見4067-2 若葉ハイムB棟 201号室

携帯:080-8392-3656 (s-aiba@chushi.xsrv.jp)

担当先輩役員：山神眞一先輩 宮本賢作先輩 原川琢至先輩 村井慎治先輩

石井博貞先輩 大西ななみ（筑波大学） 星子啓太（筑波大学）

実施日程

5 日（月）

受付・オリエンテーション・開会式・昼食・実技研修・パソコン研修(主務)

夕べの集い・夕食・入浴・シンポジウム・就寝

6 日（火）

起床・朝の集い・部屋の清掃・朝食・実技研修・昼食

審判講習・稽古会・夕べの集い・夕食・入浴・交流会・就寝

7 日（水）

起床・朝の集い・部屋の清掃・朝食・交流試合・閉会式

写真撮影・昼食・退所式・解散

平成30年3月5日から7日にかけて広島県国立江田島青少年交流の家において中四国学生剣道リーダーセミナーが開催されました。たくさんの大学にご参加いただき、感謝しております。また、山神眞一先輩をはじめ、宮本賢作先輩、村井慎治先輩、原川琢至先輩、石井博貞先輩には、お忙しい中お越しいただき、学生へのご指導ありがとうございました。また、特別講師として筑波大学より大西ななみさん、星子啓太さんの2名にお越し頂き技術面についてだけでなく、フリートークなどを交えて世界大会に対する意気込みや剣道を始めたきっかけなど多くのことを教えていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

この度のリーダーセミナーの詳細についての報告書を作成させていただきましたので、ご査証のほどよろしくお願い致します。

一日目 実技研修

山神先生の指導により、初めにエクササイズを行い、学生同士の距離を縮めるためにレク



レーションや防具を着けて「初心者に剣道を教える」をテーマに話し合いをしながら交流を行った。初心者の気持ちを知るために左手左足を前にして普段の構えとは逆の構えを取り、稽古を行ったことで、普段当たり前のようにやっている動きが難しいことだと改めて感じることができた。また、リーダーセミナーの理念である学生剣士のリーダー性を養うことを探求する充実した講習になった。

(平尾 友佑)

パソコン研修

OBの石井先輩のもと、各大学の主務が集められて主務研修が行われた。この内容としては各大会の参加申し込みや部員登録を、インターネットを使って行っており、これらをするための方法などを指導して頂くものであった。毎年同じ内容で行っているが、1年ごとに大学の組織が変わってしまうので、どうしても引き継ぎができておらず、提出期限に間に合わなかったりする大学が見受けられる。今回の研修で各大学が仕組みや利用方法を理解することができたと思うので今後の大会ではスムーズな準備が各大学できていければいいと思う。

(相場 秀斗)

シンポジウム

リーダーとは何をしなければいけないのか、何を求められているのか、中四国の大学それぞれの剣道部の抱える問題をグループごとにあげて全員で考えた。山神眞一先輩の講義のもと、特別講師である大西ななみ選手や星子啓太選手にもご参加いただき、とても有意義な時間を過ごすことができたと思う。

I. リーダーの5つの要素

1. 相手の立場に立てるコミュニケーション能力
2. 明確なビジョン
3. 決断力
4. 実行力
5. 人間的魅力



II. リーダーシップとは、人をまとめる力

1. エンパワーメント力（潜在的な活力や可能性を引き出す力）
2. ファシリテイト力（促進者）
共にある姿勢、援助的、状況への感受性豊か

III. 人を動かす求心力を磨く 10 箇条

1. 人間力を磨き、魅力的な人格に＝自他を尊ぶ心を養う習慣
2. 上手に励ます声かけ＝自尊心をくすぐり、やる気に火をつける
3. 期待をかけて発奮させる＝潜在能力を認める
4. 傾聴力を養う＝心的心声をくみ取る
5. 相手の立場に立つ＝他者理解の姿勢
6. 巧みな助言力＝成長力を加速させる
7. 大きなビジョンを語る＝成功への羅針盤を示す
8. 結束力を高めるチーム力＝信頼の絆を広げる
9. 思い切って任せる勇氣＝後ろ盾になり、見守り支える
10. 志のバトンをつなげる＝後継者、協働者を育てる

IV. 求めたいリーダーの人間性

V : Vitality（元氣、やる気があること）

S : Speciality（専門性に精通する）

O : Originality（創意工夫、独創性に富む）

P : Personality（人間性豊か、人格者）

情報や感情を共有することがコミュニケーションにつながると学んだ。

気にかける、声をかける、眼をかけること。

「みる」：観 見 看 視 診 覧 鑑みる

「きく」：聞 聴 効 利 訊

「さとす」：諭 悟 里

同じ読み方でも多くの異なる漢字がある。それぞれに意味があるからだ。どのようにきくのか、どのようにチームをさとすのか、どのように全体をみるのか、使い方によって受け取り方や伝わり方も変わるため、これからの意識も変わってくるのではないかと思う。

見る・・・表面的 観・・・内面的 訊・・・たずねるように 諭・・・おしえさとす



このシンポジウムによって、さらにリーダーとしての自覚を高め得ることができたのではないかと考える。チーム内の会話、言葉だけではなくノンバーバルコミュニケーションという方法もあると学んだ。今回学んだことを各大学に持ち帰り、共有することが大切だ、というお話も頂き、中四国大学がこれからもさらに活気づくと感じた。（忠政実来）

二日目 午前 実技研修

今回の中四国学生剣道連盟主催のリーダーズセミナーでは実技研修に特別講師として、筑波大学の星子啓太選手と大西ななみ選手に来ていただき指導していただきました。学生を代表する両選手の技を生で見ることができ、大変参考になるとともにその技のキレにびっくりしました。技そのものをどうやって打つかではなく、その技をどんな場面で使うかなども考えていて、強い選手は試合に向けて細かいところまで詰めて準備していることがわかりました。また、引き技では崩し方竹刀の扱い方すべてが丁寧で、練習の跡が色濃く見受けられました。立会いの技では星子選手には上から小手、手元を上げての小手、大西選手には面返し面を学びました。共に間合いの取り方や、手の内、打った後、全てにおいて隙がなく、レベルの高さを感じました。模範稽古では両選手の構えや技を出すタイミングに注目して見ていましたが、打突の好機をしっかりと捉えていて感心しました。両選手には面をつけて地稽古をさせていただく機会も与えていただきとても感謝しています。この経験を持ち帰って、これからの大会並びに練習に生かしていきたいと思います。星子選手と大西選手のこれからの活躍を祈念すると共に自分も負けずに頑張りたいと思いました。（平尾友佑）



午後 審判講習会

中四国学生剣道ゼミナール2日目の午後の部は審判講習会を行なった。この講習会は、審判をする際の正しい作法、動き方を身につけることで審判態度の改善を図り、1本の基準を統一することで誤審を減らし、より良い試合展開を行うことができるようにするということを目的としている。審判の判断により試合の結果は左右される。よって、審判は重大な役割を担っているため、誤審を減らし、より良い試合展開を繰り広げられるようにするための大切な審判研修となった。今回、中四国学生剣道連盟の各大学のリーダーが集うこのリーダーズセミナーで審判講習を行うことで、リーダーたちに審判者としての心得、作法を学んでもらい、それを各大学に持ち帰り部員に伝えることにより、中四国学生剣道連盟の学生剣道の質の向上が見込めると考えている。

はじめに、全日本剣道連盟が発行する冊子を一人2冊ずつ配布され、山神先輩からの指導をいただいた。内容としては「やめ」をかける時は垂直に上げる、審判旗は白旗を赤旗で見えないように巻くなどの審判をする際に基本的な部分を説明していただいた。また、審判を交代する場合は前の審判が左を向いて歩き出したと同時に次の審判が右足から入るという入れ替わり方法についても説明していただいた。審判を行う前からの試合場に向かう姿勢などを学ぶ良い機会となった。

その後男子3グループ、女子1グループの計4グループに分かれ、それぞれのグループに1人ずつ先輩方についていただき講習を行った。学生は3人1組の形態を作り、順番に、試合と審判を行いご指導いただいた。その中でも審判3人の位置取りが最も大切であることを知った。主審と試合者の空間は基本的に正三角形を意識し、主審と副審の空間は二等辺三角形を作ることで全体の動きを見ることができる。そのためには審判者は試合者の動きをしっかりと予測し動く必要がある。このことはよく研修の間に試合を止め指摘された内容であった。この他にも多くのご指導をいただいたが、1本を明確に見極めるには審判者の位置取りの重要性を再認識させられるものになったのではないかなと思う。

講習会は午後だけであったが、学生たちは短い時間で集中して学び、実践することで



身につけ翌日のリーゼミ選手権先輩方に指導していただいた成果を発揮できていたと思う。

また今年は審判研修終了後に特別講師の方々と地稽古の時間が設けられ、審判研修の試合者側で1本の大切さを学んだことで、1回1回の地稽古を真剣に取り組んでいる姿が見られ、良い研修になったと感じた。

(安方 菜々美)

二日目 学連員パソコン研修

今後大会に必要なアプリなどのダウンロードを行い、それぞれが主管を務める大会のホームページを管理できるようにし、次回大会の新しいホームページの作成や大会の忘れ物などの写真のアップの仕方などを学んだ。

ホームページは数多くの人が見るので、正確な情報を掲載しなければならない。そのために、しっかりと確認し間違っただまにしないことが重要だと学んだ。また、ホームページを通して多くの人に中四国学生剣道連盟の活動について知ってもらうために工夫が必要だと感じた。

三日目 リーゼミ選手権

研修の最終日には、3日間を通して行ってきた実技研修、審判講習のまとめとしてリーゼミ選手権を行った。この大会のチーム編成は男子2名、女子1名の3人制で、メンバー決めはくじ引きによって行われた。試合前には各チームそれぞれアップを行い、わずかな時間の中でも共に体を動かし、チーム間の交流を深めた。チーム間でのコミュニケーションも多く見られ、今回の目的である他大学との交流が大いに見受けられた。

試合では、学生が審判を行い審判講習で学んだ作法や動きなどを意識して行うことができていた。また、先ほど組まれたチームとは思えないほどのチームワークを各チームが発揮しており、1回戦から白熱した試合が行われた。代表戦になる試合も多く見られ特別ルールである任意の代表者によるジャンケン試合は会場を大いに盛り上げていた。優勝した前田選手（山口大学）、上河内選手（広島修道大学）、和田選手（吉備国際大学）を含め入賞者には特別講師の2名から色紙が贈呈された。また、特別講師の2名に優秀選手を選んで頂き、吉川選手（広島大学）、立川選手（徳山大学）、竹ノ内選手（環太平洋大学）の3名が選ばれ、色紙が贈られた。

今回この大会の参加した学生は、この大会で学んだことを大学に持ち帰って今後の大会に生かしていくことが重要になると感じた。また、これを機会に大学間の交流を行うきっかけにもなれば良いと思った。

（相場 秀斗）

